



Amazon Elastic VMware Serviceへの移行 **Workload Factory for NetApp Console**

NetApp
October 07, 2026

目次

Amazon Elastic VMware Serviceへの移行	1
NetApp Workload Factory を使用して Amazon Elastic VMware Service のコスト削減を検討する	1
EVS環境における節約効果を探る	1
Amazon EVS のデプロイ プランを手動で作成する	2
要件	2
手順	2
移行アドバイザーを使用して、Amazon EVS のデプロイプランを作成します	3
要件	3
手順	3
推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムをデプロイします	5
要件	5
考慮事項	5
手順	6
結果	8

Amazon Elastic VMware Serviceへの移行

NetApp Workload Factory を使用して Amazon Elastic VMware Service のコスト削減を検討する

VMwareワークロードをAmazon Elastic VMware Service (EVS) に移行することで得られる潜在的なコスト削減効果について検討してみましょう。この計算ツールを使用すると、ストレージとしてAmazon FSx for NetApp ONTAPを使用した場合と使用しない場合での、Amazon EVSの利用コストを比較できます。

削減額計算ツールによって、最も対費用効果の高いストレージがFSx for ONTAPであると判断された場合、詳細な評価を作成して、使用前に確認できる移行計画を取得できます。その後、Codeboxを使用してInfrastructure-as-Codeテンプレートを生成できます。

EVS環境における節約効果を探る

Amazon EVS環境への移行を計画している場合、以下の手順に従って潜在的なコスト削減効果を検討してください。



先に進む前に、節約額計算ツールの下部にある免責事項をご確認いただき、価格見積もりの算出方法について理解を深めてください。

手順

1. "NetApp Console"にログインします。
2. メニュー  を選択し、ワークロード > **VMware** を選択します。
計画センターが表示されます。
3. VMwareメニューから、*Explore savings*を選択します。削減額計算ツールが表示されます。
*環境設定*ペインでは、EVSの展開リージョンを選択し、それに応じてTCOと節約額の予測を調整できます。
4. *リージョン*ドロップダウンリストから、節約額を計算するEVS展開リージョンを選択します。
5. 必要に応じて以下のスライダーを調整し、選択した値に対するリアルタイムの削減額の計算結果を確認してください。キーボードを使用している場合は、矢印キーを使用して微調整を行うことができます：
 - 必要な物理CPU（数）
 - 必要な物理メモリ容量（GiB）
 - 必要なVMストレージ容量（TiB）
6. *EVS料金プラン*で、現在ご利用のプランを選択してください。
7. 次のいずれかを実行します。
 - Amazon EVS環境向けに移行アドバイザーを使用して["展開計画を作成する"](#)するには、*Plan EVS migration*を選択します。

- TCO計算ツールを閉じるには、「閉じる」を選択してください。

Amazon EVS のデプロイ プランを手動で作成する

VMware planning centerにアクセスするには、NetApp Workload Factoryにログインします。そこから、ニーズに合わせてカスタマイズされたAmazon EVSの導入プランまたは移行プランを手動で作成できます。

Amazon Elastic VMware Serviceでは、仮想マシンの要件を手動で指定し、カスタマイズされたAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを外部データストアとして使用できます。

要件

- Workload Factoryにアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要です。アクセス権をお持ちでない場合は、今すぐアカウントを作成してください。[手順を確認してください"ここをクリックしてください。"](#)
- Amazon Elastic VMware Serviceのサブスクリプションが必要です。

手順

1. ["NetApp Console"](#)にログインします。
2. メニュー  を選択し、ワークロード > **VMware** を選択します。

計画センターが表示されます。

3. *EVSプランを手動で作成する*を選択します。
4. VM環境の要件を入力してください。

VM移行のパフォーマンス要件と推奨事項については、以下の点に留意してください：



- パフォーマンス上の理由から、VMインベントリには最低10TiBのストレージ容量を推奨します。
- Amazon Elastic VMware Serviceのデータストアには、このデプロイメントで指定する必要なIOPS数に応じて、最低限必要なスループットが定められています。
- FSx for ONTAPファイルシステムの構成に応じて、Amazon Elastic VMware Service環境が最適なパフォーマンスを発揮するには、最低限の数の外部データストアが必要です。

5. 準備ができれば、*プランの確認*を選択して移行プランを確認します。
6. 計画を確認してください。各セクションを展開すると、計画の詳細が表示されます。

デフォルトでは、Workload Factoryは移行計画を計画センターに保存します。このオプションはページ上部付近で選択解除できます。

7. 必要に応じて、ページ右上の*プランの管理*を選択し、次に*レポートのダウンロード (.pdf) *または*VMストレージ導入のダウンロード (.csv) *を選択することで、移行プランをPDFまたはCSVファイルとして

エクスポートできます。

8. デプロイメントプランをプロビジョニングする準備ができたなら、*Provision*を選択します。

"VMwareワークロードに推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムをデプロイする"。

移行アドバイザーを使用して、Amazon EVS のデプロイプランを作成します

VMwareプランニングセンターからAmazon EVS移行アドバイザーを起動すると、ニーズに合わせてカスタマイズされた移行プランの作成に役立ちます。

仮想マシンをAmazon Elastic VMware Serviceに移行するデプロイメントプランを作成し、カスタマイズされたAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを外部データストアとして使用できます。移行アドバイザーのオプションは、VMインベントリデータの収集に使用したツールによって異なる場合があります。

要件

- Workload Factoryにアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要です。アクセス権をお持ちでない場合は、今すぐアカウントを作成してください。手順を確認してください["ここをクリックしてください。"](#)。
- Amazon Elastic VMware Serviceのサブスクリプションが必要です。

手順

1. "NetApp Console"にログインします。
2. メニュー  を選択し、ワークロード > **VMware** を選択します。

計画センターが表示されます。

3. デプロイメントプランを作成するために使用するVMインベントリをリストから選択し、その行の*プランニングを開始*を選択します。
4. 表示されるドロップダウンメニューから*EVS*を選択します。

*AWS Cloudのオンボーディング準備*ウィザードが表示されます。

5. 必要な情報を入力します。

指定

1. 「VM構成のアップロード」セクションで、移行計画の作成に使用するデータセットに関する情報を確認します。「VMインベントリ概要」セクションには、インベントリファイルからVMの数と総ストレージ容量が反映されます。
2. 「VMインベントリに関する考慮事項」セクションで、移行するVMのリストをフィルタリングするためのオプションを選択します：
 - a. リージョン：Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを導入するリージョンを選択します。最適なパフォーマンスとコスト効率を実現するには、通常、既存のAmazon EC2 SDDCがデプロイさ

れているリージョンと同じリージョンを使用します。

- b. このリージョン内の仮想マシン (VM) の予測パフォーマンスレベルを選択してください。まずはIOPSの設定値を小さくすることをお勧めします。ファイルシステムが作成された後、ワークロードの移行やデプロイが行われるにつれて、プロビジョニングされたSSDのIOPSを増やすことができます：

- 標準から高性能：平均IOレートが20～5000 IOPSのVM向け。
- 非常に高いパフォーマンス：平均IOレートが5000 IOPSを超えるVM向け。
- 非常に低いパフォーマンス：平均IOレートが20 IOPS未満のVMの場合。

3. 「ターゲット容量と保護に関する考慮事項」セクションで、いくつかのストレージオプションから選択します：

- a. **VMストレージに関する考慮事項**：オンボーディングされた各VM用に作成されるデータストアのサイズを、現在使用されているサイズ（推奨）に基づいて決定するか、プロビジョニングされたサイズに基づいて決定するかを選択します。

外部データストアは、Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムボリュームを使用して実装されます。

- b. 平均データ削減比率：3つの一般的なデータ削減比率から選択します。「1：1 - 削減なし」、「1：1.25 - 20%削減」、または「1：1.5 - 33%削減」を選択します。

どの比率を選ばよいか迷っている場合は、*Help me decide*を選択してください。_Data reduction ratio assistant_ダイアログが表示されます。お客様のVMインベントリおよびストレージ環境に該当する記述を選択してください。アシスタントが適切なデータ削減率を推奨します。推奨比率を使用するには、*Apply*を選択してください。

- c. ヘッドルームの割合：FSx for ONTAPファイルシステムの容量に追加される容量増加の割合を入力します。

20%未満の値を選択した場合、保護や長期バックアップのためのボリュームスナップショットを作成できないことに注意してください。

- d. **VMスナップショット保護**：スナップショットでVMを保護するには、このオプションを有効にします。

4. 「次へ」を選択します。

選択

1. *仮想マシンの選択*ページで、AWS移行に含める仮想マシンをリストから選択します。各仮想マシンの電源状態、および仮想マシンが存在するデータセンターとクラスタによってリストをフィルタリングできます。

VM一覧では、列として表示するVM情報の種類を選択できます。例えば、_ピーク読み取りIOPS_を選択すると、各VMのピーク読み取りIOPSを示す列が表示されます。

2. 必要に応じて、コストまたは復旧性に合わせてデプロイを最適化することもできます。

- コスト：Workload Factoryは、I/O密度が低いVMをリストから選択します。これにより、リソース要件を削減できます。
- 復旧性：Workload Factory は、ローカルにすばやくコピーするのが最も簡単な VM をリストから選択

します。これにより、障害発生時の迅速な復旧が可能になります。

3. 「次へ」を選択します。

設計

- *ClassReviewインスタンスストレージ割り当て*ページで、VM情報、ボリューム分類ルール、ボリューム割り当て、および導入の一部として移行されるボリュームのリストを確認し、*次へ*を選択します。

計画の確認

1. *Review plan*ページで、移行予定のすべてのVMについて、月々の節約額とコストの見積もりを確認してください。

ページ上部には、FSx for ONTAPファイルシステムとEBSボリュームの月々の推定節約額が表示されます。各セクションを展開すると、推奨されるファイルシステム構成、推定節約額の内訳、前提条件、および技術的な免責事項の詳細が表示されます。

移行計画は、デフォルトでは計画センターの計画リストに自動的に保存されます。

2. 必要に応じて、ページ右上の*プランの管理*を選択し、次に*レポートのダウンロード (.pdf) *または*VMストレージ導入のダウンロード (.csv) *を選択することで、移行プランをPDFまたはCSVファイルとしてエクスポートできます。
3. プランを進める準備ができれば、*Provision*を選択して、推奨されるAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムの導入を開始します。

"VMwareワークロードに推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムをデプロイする"。

推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムをデプロイします

推奨されるFSx for ONTAPファイルシステム（場合によっては複数のファイルシステム）がお客様の要件を正確に満たしていることを確認したら、Workload Factoryを使用してAWS環境にシステムをデプロイできます。

Workload Factory アカウントに追加したポリシーと権限に応じて、Workload Factory を使用して FSx for ONTAP ファイルシステムを完全にデプロイできます（読み取り / 書き込みモードを使用）。権限が少ない場合（読み取り専用モード）、または権限がない場合（Basic モード）は、Codebox から CloudFormation テンプレートを使用して、AWS でご自身で FSx for ONTAP ファイルシステムをデプロイする必要があります。

要件

- Amazon Elastic VMware Serviceのサブスクリプションが必要です。
- AWSアカウントでFSx for ONTAPファイルシステムを作成するために必要な権限が必要です。

考慮事項

- クイック作成オプションまたは詳細作成オプションを使用できます。詳細作成では、カスタマイズ可能な追加のストレージパラメータがいくつか用意されています。["これら2つのオプションの提供内容について確認します"](#)。

- 「Amazon Elastic VMware Service の設定」セクションで、外部データストアに接続する EVS 仮想化環境を選択できます。これにより、デプロイメントに関するベストプラクティスオプションが一部のフィールドに自動的に入力されます。必要に応じてこれらのオプションを変更できます。

手順

1. *Review plan* ページの下部で、*Deploy* を選択すると、FSx for ONTAP ファイルシステムの作成ページが表示されます。

FSx for ONTAP ファイルシステムを定義するフィールドのほとんどは、指定した情報に基づいて入力済みですが、このページで入力が必要なフィールドがいくつかあります。

2. 「ファイルシステム一般設定」セクションに、以下の情報を入力してください：
 - a. **AWS 認証情報**：Workload Factory に FSx for ONTAP ファイルシステムを直接作成するために必要な権限を付与する認証情報を選択または追加します。また、Codebox から CloudFormation コードを選択し、AWS で FSx for ONTAP ファイルシステムをご自身でデプロイすることもできます。
 - b. **ファイルシステム名**：この FSx for ONTAP ファイルシステムに使用する名前を入力します。
 - c. **タグ**：オプションで、この FSx for ONTAP ファイルシステムを分類するためのタグを追加できます。
3. 「Amazon Elastic VMware Service 設定」セクションで、「環境 ID」リストから、データストアを接続する EVS 環境を選択します。

これにより、以下のフィールドが自動的に入力されます：

- **VPC**
- **アベイラビリティゾーン**
- **サブネット**
- ***NFS データストアへのアクセス*** セクションで、*EVS ホスト管理のみ* オプションを選択した場合、*EVS ホスト管理 (CIDR)* フィールドは自動的に入力されます。
- ***データストアのマウントオプション*** セクションで、データストアを EVS クラスタにマウントするように選択した場合、*EVS クラスタ VMware vCenter アドレス* と *vSphere 管理者認証情報のシークレット ARN* フィールドは自動的に入力されます。

4. 「ネットワークとセキュリティ」セクションに、以下の情報を入力してください：
 - a. **リージョンと VPC**：FSx for ONTAP ファイルシステムが展開されるリージョンと VPC を選択します。
 - b. **セキュリティグループ (高度な作成のみ)**：*高度な作成* オプションを使用する場合、すべてのトラフィックが FSx for ONTAP ファイルシステムにアクセスできるように、FSx for ONTAP VPC のデフォルトのセキュリティグループを選択できます。新しいセキュリティグループを作成するか、既存のセキュリティグループを選択できます。

「EVS NFS データストアに合わせてセキュリティグループ構成を調整する」オプションを有効にすると、Workload Factory は EVS NFS データストアの設定に従ってセキュリティグループを構成します。

セキュリティグループにインバウンドルールを追加して、他の AWS サービスが FSx for ONTAP ファイルシステムにアクセスできる範囲を制限できます。これにより、オープンになっているサービスの数を減らすことができます。最小限必要なポートとプロトコルは次のとおりです：

プロトコル	ポート	目的
TCP、UDP	111	ポートマッパー（NFSリクエストで使用するポートをネゴシエートするために使用される）
TCP、UDP	635	NFS mountd（NFSマウント要求を受信する）
TCP、UDP	2049	NFSネットワーク トラフィック
TCP、UDP	4045	ネットワークロックマネージャ（NLM、lockd） - ロック要求を処理します。
TCP、UDP	4046	ネットワークステータスマニター（NSM、statd） - ロック管理のためにサーバーの再起動についてNFSクライアントに通知します。

a. 可用性ゾーン：可用性ゾーンとサブネットを選択します。

ゾーンをまたぐトラフィックに対する料金を回避するには、VMware SDDCがデプロイされているのと同じアベイラビリティゾーンを選択する必要があります。

b. 暗号化（高度な作成のみ）：*高度な作成*オプションを使用する場合、ドロップダウンからAWS暗号化キー名を選択できます。

c. **NFS** データストアへのアクセス（高度な作成のみ）：*高度な作成*オプションを使用する場合、すべてのホストがデータストアにアクセスできるかどうか、またはEVS管理ホストのみがデータストアにアクセスできるかどうかを選択できます。

5. 「ファイルシステムの詳細」セクションに、以下の情報を入力してください：

a. **ONTAP** 認証情報：ONTAPのユーザー名とパスワードを入力してください。

b. ストレージ**VM**の認証情報（高度な作成のみ）：ストレージVMのパスワードを入力して確認します。パスワードはこのファイルシステム固有のものにすることも、ONTAPの認証情報として入力したパスワードと同じものを使用することもできます。

6. 「EVSクラスタ接続」セクションに、以下の情報を入力してください：

a. データストアのマウントオプション：オプションで、*EVSクラスタにデータストアをマウントする*オプションを有効にすると、データストアがAmazon EVSクラスタに自動的に接続されます。このオプションを選択すると、Workload FactoryはVMware ESXiホストの設定をONTAPのベストプラクティスの推奨事項に一致するように構成します。ファイルシステムをデプロイする前に、*概要*セクションでプランの詳細を確認し、変更された設定を確認できます。

b. **EVS** クラスタ**vSphere** コンソールの詳細：Amazon EVSに接続するVMware vCenterサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力してください。

c. **vSphere** 管理者資格情報のシークレット**ARN**：vSphere管理者資格情報のシークレットARNを選択します。これらの資格情報は、データストアをマウントし、推奨されるVMware設定を構成するために使用されます。

Amazon EVSがこのリージョンで利用できない場合、またはアカウントに利用可能なシークレットARNのリストを取得する権限がない場合は、シークレットARNの値を手動で入力できます。

7. 概要 セクションでは、お客様の情報に基づいて VMware 移行アドバイザーが設計した FSx for ONTAP ファイルシステムおよびデータストアの構成を確認できます。

8. FSx for ONTAP ファイルシステムをデプロイするには、作成 を選択します。この処理には最大2時間かかる場合があります。

オプションとして、Codeboxウィンドウで*CloudFormationにリダイレクト*を選択し、CloudFormationスタックを使用してファイルシステムと推奨されるVM構成を作成できます。

どちらの場合も、CloudFormationで作成の進行状況を監視できます。

結果

FSx for ONTAPファイルシステムがデプロイされました。これで、CodeboxのAWS CloudFormationテンプレートを使用して、推奨されるVM構成をAmazon Elastic VMware Service環境にデプロイできます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。